# 市民福祉常任委員会所管事項調査報告書

| | |
|---|---|
| 期　日 | 令和５年５月10日(水) |
| 訪問先 | 京都府　舞鶴市 |
| 出席者 | 田口 孝男 委員長　山﨑 由枝 副委員長　後藤 由紀子 委員<br>松本 樹影 委員　　栗山　香代子委員　　瀧口 慎太郎 委員<br>田上 祥子 委員 |
| 随行者 | 和久井副主幹 |
| 調査項目 | 子育て交流施設「あそびあむ」について |
| 調査内容 | 舞鶴市は、全国的に急速な少子化の進行、子ども同士の交流機会の減少、家庭や家族の形態の変化等により家庭や地域の子育て機能が弱まり、子育てに対する負担感や不安感が増大していると言われている社会情勢のもと、平成27年４月に子育て交流施設「あそびあむ」を開設した。「あそび」は人格形成の基礎づくりとなるものであり、成長・発達段階に応じた「豊かなあそび、すなわち五感を使った体験」により、子どもの心と体、社会性や情緒面などの発達を促進させるものである。遊びを通じて、未来を担う子どもたちに健全な発達の援助をし、その目標実現のために、親たちへの子育て支援を始め、子どもを取り巻く社会への情報発信に努めている。<br>「あそびあむ」は、市内外を問わず年間７万人を超える方々に利用され、市の子育て支援の中核的施設となっている。様々な世代の人たちが、交流し互いに刺激し合うことにより、子どもも大人も成長し合える施設であると感じた。 |
| 主な質疑 | **Ｑ　令和４年度の利用世代の内訳は。**<br>Ａ　乳幼児が約46％、小学生が8％、中学生以上が0.4％、大人が約46％、このうち65歳以上が約3％である。父親の利用者数が多い点が特徴的であり、大人全体の約28％を占めている。<br>**Ｑ　今後の運営方針は。**<br>Ａ　持続可能な運営に向けて「あそびあむ」の管理運営事業に加え、時代に応じた様々な子育て課題をいち早く察知し親子にとって楽しく魅力ある事業「あそびの充実事業」をNPO法人に委託する等“住民同士の共生型子育て支援”を目指す。<br>**Ｑ　課題は。**<br>Ａ　家庭の子育て力をどう向上させていくのか。多世代交流の方法、孤立予防である。 |

# 市民福祉常任委員会所管事項調査報告書

| | |
|---|---|
| 期　日 | 令和５年５月11日（木） |
| 訪問先 | 京都府　舞鶴市 |
| 出席者 | 田口 孝男 委員長　山﨑 由枝 副委員長　後藤 由紀子 委員<br>松本 樹影 委員　　栗山　香代子委員　　瀧口 慎太郎 委員<br>田上 祥子 委員 |
| 随行者 | 和久井副主幹 |
| 調査項目 | 乳幼児教育ビジョン推進事業「乳幼児教育センター」について |
| 調査内容 | 舞鶴市では、舞鶴市教育振興大綱において「０歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を基本理念に掲げ、とりわけ０歳から就学前の乳幼児期は、人格形成の基礎が培われる最も大切な時期であることから、乳幼児教育の質の向上に向けた取組を積極的に進め、小・中学校へつなげる教育の充実を目指している。また、家庭や地域・保育所・幼稚園・学校・行政等が連携しながら取組を進めるための指針である「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」をもとに乳幼児教育コーディネーターや発達支援教育コーディネーター、相談員等を中心に乳幼児教育・発達支援に関する事業を実施している。「乳幼児教育センター」は、これまで実施してきた、乳幼児教育の質の向上研修、保幼小中接続カリキュラム研究、乳幼児教育センター、乳幼児教育コーディネーター等に関する調査・研究の成果を踏まえて開設された施設で、舞鶴市の乳幼児教育・発達支援をコーディネート・サポートしている。<br>「子育て環境日本一」を目指し、「子どもの『成長』と子育ての『喜び』を地域社会全体で『支える』まち　あつぎ」の実現を基本理念とする本市の施策に大いに役立てられるものであった。 |
| 主な質疑 | **Ｑ　ビジョン策定の経緯は**<br>Ａ　平成28年度文科省のモデル事業に採択され、国の委託事業として乳幼児教育に取り組んだ。０歳から就学前が生涯における人格形成の基礎を作る大事な時期であるため、幼児教育に関わる専門職や関係機関等が乳幼児期に大切にしていきたいことを共通認識していけるよう平成28年３月に策定した。５年に１度見直され、平成30年度に改定している。<br>**Ｑ　保幼小中接続カリキュラムとはなにか。**<br>Ａ　小学校区ごとに連携協力園・校をつくり、５歳児と小学１年生が連携活動を体験するもの。<br>**Ｑ　今後の課題は。**<br>Ａ　保育者の育成や確保、次世代の育成である。 |